

# SUIRLO NEWS



## 国立大学法人 信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 [サイロ]

## CONTENTS

### ▶01 機構長より NEWS LETTER 発刊にあたって

機構長  
中村 宗一郎



進機構 (Shinshu University-Innovative-Research & Liaison Organization、SUIRLO、通称サイロ) を設置しました。機構の下には学術研究支援本部と産学官連携・地域総合戦略推進本部を置き、機構の諸活動を担う専門人材をURA (University-Research Administrator) 室に配置しました。また、このたび遅ればせながら、県内5ヶ所に分散している信州大学の全てのキャンパスに、機構の窓口として「ステーション」を設置しました。機構としての完成度は未だ道半ばといったところですが、URA室を中心に学術研究と産学官地域連携を推進し、本学の強みを更に強化し、持続化するための支援体制の整備を進めているとこ

ろです。ご承知のように、本学は、第3期中目標・中期計画において「先鋭領域融合研究群を中心とした世界的な教育研究と多分野にわたる地域的・全国的な教育研究拠点」たることを目標に掲げました。取組みに対する評価は、文科省指標及び本学の独自指標で評価されることとなり、学術論文(論文集、被引用数、質の高い論文数、国際共著論文数等)、海外の大学や研究機関との共同研究、大学発ベンチャーの設立・活動状況、知的財産の実用化・企業との共同出願、一定金額以上の共同研究・受託研究などの評価項目で高い実績が要求されることとなります。これらの目標を達成するためには、大学活動の源泉である「学術研究力」の強化に加え、学術研究の成果を円滑に社会実装に繋げるための「産学官地域連携力」の強化と、「両機能の高度な連動が求められることになり、機構の活動が大変重要になります。教職員の皆様、ステークホルダーの皆様、関係各位のこれまで以上のご支援とご協力をお願い申し上げます。

ろです。ご承知のように、本学は、第3期中目標・中期計画において「先鋭領域融合研究群を中心とした世界的な教育研究と多分野にわたる地域的・全国的な教育研究拠点」たることを目標に掲げました。取組みに対する評価は、文科省指標及び本学の独自指標で評価されることとなり、学術論文(論文集、被引用数、質の高い論文数、国際共著論文数等)、海外の大学や研究機関との共同研究、大学発ベンチャーの設立・活動状況、知的財産の実用化・企業との共同出願、一定金額以上の共同研究・受託研究などの評価項目で高い実績が要求されることとなります。これらの目標を達成するためには、大学活動の源泉である「学術研究力」の強化に加え、学術研究の成果を円滑に社会実装に繋げるための「産学官地域連携力」の強化と、「両機能の高度な連動が求められることになり、機構の活動が大変重要になります。教職員の皆様、ステークホルダーの皆様、関係各位のこれまで以上のご支援とご協力をお願い申し上げます。

### ▶01 機構長より NEWSLETTER 発刊にあたって

#### 研究推進

### ▶02 科研費の制度改革 とSUIRLOの支援活動

#### 地域連携

### ▶03 SBCとの連携 防災減災プロジェクト

#### 産学官連携

### ▶04 信大見本市 開催報告

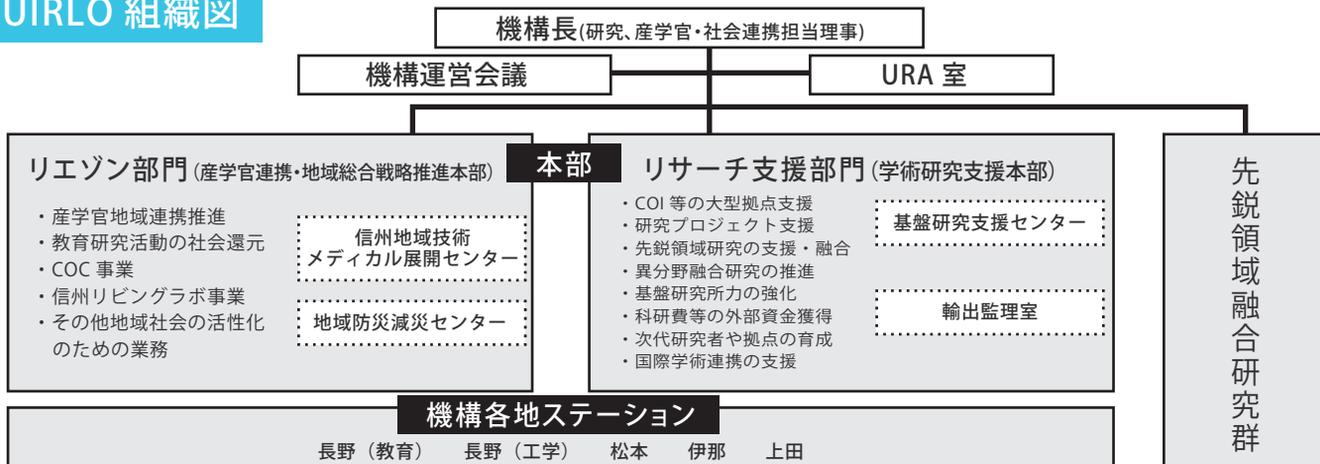
### ▶05 新技術説明会 開催報告

### ▶06 信州ベンチャー コンテスト2016 開催報告

#### 先鋭領域融合研究群

### ▶07 次代クラスター 研究センターの紹介

### SUIRLO 組織図



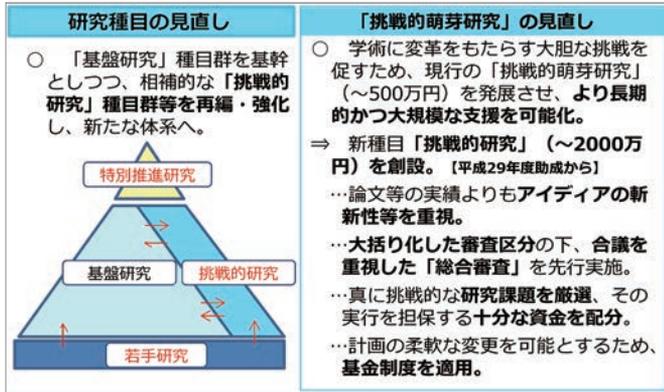
▶02  
研究推進

科研費の制度改革と  
SUIRLO(サイロ)の支援活動

学術研究支援本部  
土田 拓  
研究支援課  
石川 佳紀

1 「挑戦的研究」創設!!

現在、科学研究費助成事業(以下、科研費)では、研究種目の見直し、審査区分と審査方式の見直しをはじめとする大きな改革が進められています。本年度は、その一環として従来の「挑戦的萌芽研究」が見直され、新たな種目「挑戦的研究(開拓・萌芽)」が創設されました。これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向し、飛躍的に発展する潜在性を有する研究を支援するための挑戦的研究



出典：平成29年度科学研究費助成事業公募要領等説明会配布資料の一部を修正

2 SUIRLO(サイロ)の支援活動

今年度から来年度にかけて、「挑戦的萌芽研究」の見直し以外にも変更が目白押しの科研費ですが、学術研究・産学官連携推進機構では、科研費対策講演会(平成28年6月13日開催)や科研費全件アドバイザー制度などを通じて、科研費に関する全学目標「保有率60%」の達成に向けて支援を行っています。最新情報は、学内専用Webページ「研究推進ガイド」([http://www.shinshu-u.ac.jp/research\\_guides/](http://www.shinshu-u.ac.jp/research_guides/))で随時発信中です。ぜひご覧ください。

▶03

地域  
連携

SBCとの連携プロジェクト始動!

産学官  
地域連携課  
鶴澤 尚弘

「長野県の放送局は?」と聞かれると真っ先に思い浮かぶのがSBC(信越放送)という方も多いのではないのでしょうか。ご存知のとおり、SBCはラジオ・テレビを通じて長野県下でも有数の高い発信力を有しています。そんなSBCと連携して、地域防災減災センターでは防災減災プロジェクトを開始します。

現在、様々なメディアを利用した活動が検討されていますが、今回は①センター各部門長のラジオ番組への出演②防災減災に関するイベントの開催といった2つをご紹介します。まずラジオへの出演ですが、毎月第一金曜日の朝に放送される「Jのコラム」というコーナーでSBCのアナウンサーと部門長が対談する形で進められます。防災減災教育・地域連携・防災減災研究・医療支援と4つの部門があるので、9月から全4回でそれぞれの部門にスポットを当てた対談を行います。ぜひご覧ください。

続いて、防災減災に関するイベントの開催ですが、この記事を書いているまさに当日(9月21日)に第一弾となる「あなたを守る!命を守る!信州『研究×報道』最前線」と題したシンポジウムが開催されました。センターの連携教員である大塚勉教授(全学教育機構)による講演では、信州の豊かな自

然から災害を読み解く形で進められました。SBCが保有する映像を織り交ぜた講演で、通常とは異なるわかりやすさがあったのではないかと思います。その後、菊池センター長・今村医療支援部門長・横山研究員が登壇し、SBCの報道記者を交えたフリートークが行われました。フロアの一般参加者から行われ非常に興味深い内容でした。20名の方がご来場され、追加で椅子を並べて対応する必要が出てくるほどの盛況となりました。

SBCとの連携事業はまだ始まったばかりですが、お互いの特長を活かして信州の防災減災に役立てるよう活動していきます。



多くの方が来場されて、会場は満席となりました

▶04 産学官連携 産学官地域連携課 山崎守雄

# 第3回 信州大学 見本市

開催  
報告

## 知の森総合展2016

日時:平成28年  
8月30日(火) 10:30~16:00  
会場:しんきんイベントホール

上田市材木町1-17-12 上田信用金庫本店営業店内) TEL:0268-22-6260

主催:信州大学見本市開催実行委員会

- 委員長 濱田 州博 (学長)
- 副委員長 中村宗一郎 (理事研究・産学官社会連携担当副学長)  
徳井 丞次 (副学長広報担当)
- 幹事長 酒井 俊郎 (工学部 物質工学科 准教授)
- 副幹事長 巽 広輔 (理学部 化学科 准教授)
- 運営事務局 学術研究・産学官連携推進機構(SUIRLO)  
研究推進部産学官地域連携課

共催:上田市、上田信用金庫



"着る"生活動作支援ロボット curara®

最後に、見本市へ出展  
いただいた方、実行委員  
会の方に、この場をお借  
りし感謝申し上げます。

台風の影響であいにくの天気でしたが、県内外の企業をはじめ、行政、金融関係者、一般市民、学内関係者など、約370名の方が訪れ、本学の幅広い研究シーズを地域へと発信することができ、ご来場いただいた方と様々な課題についても情報交換することができました。

この展示会は、企業などの共同研究や産学官連携、いわゆる学外との連携推進を図るだけでなく、普段は顔を合わせることの少ない、異なる分野で研究を進める学内の研究者同士の情報交換の場という一面も兼ねており、学部横断的な研究の推進にも役立つことと思えます。



ブナの実ようかん

平成28年8月30日(火)、「第3回信州大学見本市」知の森総合展2016」を上田信用金庫本店内しんきんイベントホールにおいて開催しました。

信州大学見本市は、社会共創の一環として、信州大学の特色ある研究を地域社会に発信し、企業などとの共同研究や産学官連携につなげるための研究シーズ展です。

見本市当日は、5つのキャンパスで活動する研究者らが一堂に会し、計62ブースを出展しました。



# 05 産学官連携

## 平成28年度信州産学官連携機構 新技術説明会の開催報告

産学官地域連携課 鶴澤 尚弘  
知的財産室 柏原 秀雄

去る8月2日(火)に科学技術振興機構(JST)の東京本部別館(東京・市ヶ谷)において、信州産学官連携機構(SIIS)による新技術説明会が開催されました。新技術説明会は、研究



新技術説明会の様子  
参加者数は例年を大きく上回りました

成果の実用化を目的として、研究者自らが研究成果を参加者に発表する場で、企業関係者を中心に毎年多くの方にご参加頂いています。今回は、信州大学から6名、諏訪東京理科大学から2名の研究者が発表を行いました。今年特に注目度が高く、例年を上回る294名の方にご参加頂きました。また、発表後の個別面談も30件近く実施され、活発な議論が行われました。今後、ご参加された企業の方には、コーディネータ等から事後フォローを行い、共同研究などの連携に進められるよう、活動していく予定です。

# 06 産学官連携

## 信州ベンチャーコンテスト 2016開催!

産学官連携・地域総合戦略推進本部 中西 弘充

産学官金の連携で主催する信州ベンチャーコンテストは今年で3回目を迎えました。信州を元気にするビジネスアイデア・ビジネスプランを高校生部門・アイデア部門・起業部門の3部門で募集し、各部門5件を書類審査で選考しました。公開審査は9月10日(土)に信州大学上田キャンパスで開催しました。

「産学官連携」が受賞しました。医師として活動する中島さんが、旅行に行きたくても行けない患者がいることを課題と捉え、長野の魅力発信するとともにバリアフリーな旅行プランに価値があることを提案し、多くの観客の支持を得ました。



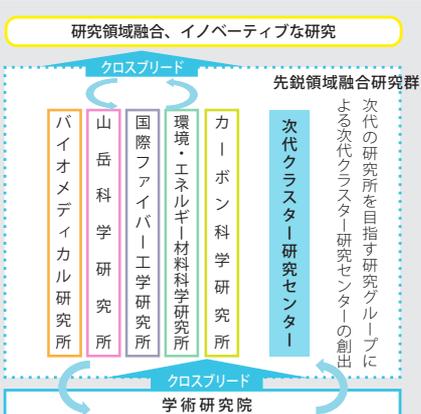
信州ベンチャーコンテスト 発表者と審査員

# 07 先鋭領域融合研究群

## 次代クラスター 研究センターを設置しました

機構長 中村 宗一郎

信州大学は、第3期中期目標・中期計画において、先鋭領域融合研究群(ICCER)を中心に特色ある分野で世界をリードする研究を展開していくことを約束しました。ICCERは、現在、カーボン科学研究所、環境・エネルギー材料科学研究所、国際ファバー工学研究所、山岳科学研究所及びバイオメディカル研究所の5研究所から構成されていますが、この組織をサステイナブルなものにするため、このたび研究群の枠組みの中に、数年後には新たな研究所として機能することが期待できる5つの研究グループ(菌類・微生物ダイナミクス創発研究センター、航空宇宙システム研究センター、次世代医療研究センター、社会基盤研究センター、食農産業イノベーション研究センター)を選定し、これらを総称して「次代クラスター研究センター」と命名しました。研究群の重層化と裾野の拡大によって信州大学の強みと特長を反映したイノベティブな研究の推進を図るうとの目論見です(図1)。世界では今、環境、エネルギー、食料、医療、少子高齢化など様々な問題が山積しています。人類社会がこれらの問題を乗り越えて持続的に発展していくためには、革新的なイノベーションが求められています。革新的イノベーションは、日本が引き続き競争力を維持するためには欠かすことができない観点となります。わが国ではそれぞれの特色や強みを持った地域が存在しており、そうした多様性に基づいたイノベーションこそが国力の向上につながっていくと考えられます。次代クラスター研究センターの参画によって機能強化されたICCERは、間違いなく、その役割を担ってくれるはず。次号のニュースレターから、これら5つの研究センターを順に紹介していきます。



ICCERにおける次代クラスター研究センターの位置

# 国立大学法人 信州大学 学術研究・産学官連携推進機構【サイロ】

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 CSMIT 内  
TEL:0263-37-2091 FAX:0263-37-3049  
WEB サイト: <http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suirlo>

SUIRLO の WEB サイト新設中

